

佐賀城(佐嘉城, 沈み城, 亀甲城) (国の重要文化財(鯨の門及び続櫓), 佐賀県史跡,

百名城) (佐賀市城内 1 丁目) (佐賀城公園)

佐賀城（さがじょう）は、佐賀県佐賀市にあった日本の城。古名は佐嘉城。別名、沈み城、亀甲城。江戸時代初頭に完成し、外様大名の佐賀藩鍋島氏の居城であった。

概要

佐賀城は佐賀市の中心に位置し、城郭の構造は輪郭梯郭複合式平城である。幅 50m 以上もある堀は、石垣ではなく土塁で築かれている。平坦な土地にあるため、城内が見えないように土塁にはマツやクスノキが植えられている。城が樹木の中に沈み込んで見えることや、かつては幾重にも外堀を巡らし、攻撃にあった際は主要部以外は水没させ敵の侵攻を防衛する仕組みになっていたことから、「沈み城」とも呼ばれてきた。また城の完成予想図とは異なる部分が多く、厳密には未完成の城である。

江戸時代には、城下と城内に掘割が縦横に張り巡らされ、生活用水に使用されていた。また、城下には豊前小倉から長崎まで続く長崎街道が通り、宿場町としても栄えた。

明治時代初期に起こった佐賀の乱により大半の建造物は焼失し、鯨の門と続櫓のみが残っており国の重要文化財に指定されている。焼失した天守は小倉城並みか、それよりわずかに大きい規模ではないかと最近の調査で推測されている。

現在、城跡は佐賀城公園に整備され、佐賀県庁、合同庁舎、放送局、美術館、博物館、小中高の各学校など公共施設が建ち並んで佐賀県政治経済の中心地となっている。

歴史・沿革

戦国時代

龍造寺隆信をはじめ龍造寺氏の宗家居城であった佐賀龍造寺城（別名：村中城）は、平安時代末期に藤原季喜が龍造寺村の領主になって土着し、その子が龍造寺氏と称して以降、慶長期に鍋島氏が近世佐賀城を普請(改修)するまでの間、龍造寺氏の拠点であった。

1569 年（永禄 12 年）、大友宗麟は、筑後国高良山の吉見岳城に本陣を置き、佐賀平野の北路から大軍を投じた進攻により、佐賀龍造寺城の周辺は悉く焼かれ、城は窮地に追い込まれた。隆信は、一度は大友と和平したが、1570 年（元亀元年）、再び宗麟は大軍で佐賀に攻めて来た。再度、追い込まれた龍造寺軍は佐賀龍造寺城に籠城した。窮地に追い込まれた龍造寺軍の鍋島信正(後の佐賀藩祖鍋島直茂)は、夜襲により今山の陣で大友軍の総大将の大友親貞を討ち取った（今山の戦い）。その後、龍造寺隆信の子 政家、その子 高房の居城となる。

その中世の佐賀龍造寺城の所在地と実態については、不明な点が多い。平成 21・22 年度に、佐賀市教育委員会によって発掘された西御門付近で、中世の佐賀龍造寺城に関連する大型建物 2 棟や堀などの遺構や遺物が初めて確認された。

また、佐賀龍造寺城域の龍造寺氏館跡については、若楠会館と佐賀西高校グラウンドがその推定地と考えられている。

安土桃山時代・江戸時代

佐賀城はもともと龍造寺氏が居城としていた村中城を改修・拡張したものである。九州北部に覇を唱えていた龍造寺隆信は 1584 年（天正 12 年）に島津・有馬連合軍に敗れて戦死した。これを機に龍造寺家臣の鍋島直茂が実権を握った。

直茂は早くも、1585 年（天正 13 年）には村中城改修を計画している。しかし未だ当主であった龍造寺政家の居城であり、直茂は蓮池城が居城であったため、主家に憚って計画には手を付けなかった。計画が実現したのは江戸幕府政権下で正当に佐賀藩主として認められた後の、1602 年（慶長 7 年）本丸の改修を始

めてからである。直茂の計画に則り、次の藩主鍋島勝茂が 1611 年（慶長 16 年）に完成させた。内堀の幅は 80m にも及ぶ広大なもので、小倉城天守の図面を参考に 4 層 5 階の天守も建造された。また、元和の一国一城令でかつての居城蓮池城は破却された。

城は幾度も火災に見舞われた。特に 1726 年（享保 11 年）には大火に見舞われ、天守以下本丸建造物の大半を焼失した。これにより御殿などが 1728 年（享保 13 年）に二の丸に完成し、藩政は二の丸を中心に行われた。更に 1835 年（天保 6 年）の火災では二の丸を焼失。これにより再び本丸再建が行われ政務は本丸に移った。現存する鯨の門・続櫓はこの再建時の 1838 年（天保 9 年）に完成したものである。同時に立てられた本丸御殿は、明治維新以後、裁判所や学校として利用された。なお、天守は享保の火災以後再建されていない。

近現代

1874 年（明治 7 年）江藤新平を中心とした佐賀の乱が起こり佐賀城はこの反乱軍に一時占拠された。この戦闘の際に建造物の大半を失った。なお、鯨の門には当時の弾痕が現在も生々しく残っている。以後、佐賀城址には学校、測候所、県庁など公共施設が次々と建設された。鯨の門と続櫓は 1953 年（昭和 28 年）佐賀県重要文化財に指定され、1957 年（昭和 32 年）には国の重要文化財に指定された。この年、明治時代の建造物「協和館」が天守台に移築されサークル活動等に利用されていたが、2003 年（平成 15 年）の佐賀市議会で解体されることが決定された。

本丸御殿の一番奥にあり天保期の建物と見られる「御座の間」は鍋島直正の居室であったが、1958 年（昭和 33 年）に水ヶ江大木公園に南水会館として移築された。この建物は現存し、2001 年（平成 13 年）、市の重要文化財に指定され、2004 年（平成 16 年）に天保年間完成の本丸御殿を復元した佐賀県立佐賀城本丸歴史館が完成、移築され現在に至っている。

2006 年（平成 18 年）4 月 6 日、日本 100 名城（89 番）に選定された。

2012 年より大規模な天守台の発掘調査及び、文献調査が行われている。これにより、外観は 4 層屋根ながら内部は上から上段（5 階）、下段（4 階）、二段（3 階）、三段（2 階）、其外（1 階）の 5 階建てとなっており、最上層が上下 2 階建てとなっているのが特徴で、一階は礎石の配置状況から天守閣としては珍しい書院造りであったと推定されている。また、窓は天守台の発掘によって出土した金具から突上戸と推定されている。これらの特徴は参考にしたとされる小倉城天守の特徴と一致することが分かって来た。

Wikipedia による



